第４回　新宿区基本構想審議会　議事概要

■日時：平成 18 年８月 30 日（水）午後１時 30 分～4 時
■場所：新宿区立教育センター大研修室
■出席者：委員 30 名
（凡例：●区民委員、◎学識委員、○区議会委員、△事務局(区・ｺﾝｻﾙ)）
■議事：

１．新宿区民会議提言　Ⅳ章について

△（資料説明）
・資料１（①課題と現況、②区民の意識・意向と提案、③区民提言のポイント、④統計データ等）
・資料２（区民会議提言項目一覧表）

「１.若者が集う活気あふれる新宿づくり」「２.ワーク・ライフ・バランス」

●介護については必要性に迫られるので制度が導入され活用されるが、子育ての場合は必ずしも十分に活用されないことも多い。例えば男性の育児休業制度は、制度としてあっても実際には利用できない場合が多いだろう。制度が存在することと利用できることは異なるので、大企業・官公庁と中小企業とで非常に異なると思われるが、制度利用の実態がわかれば教えて頂きたい。
・また、分科会の中で導入すべき制度として何か他に考えているものがあれば教えて頂きたい。助成金制度は助成金を他の用途に利用される場合があるなど、効果の面で課題も多い。
●制度の導入が難しいだけに、区による意識啓発と助力が必要ではないかと考え、分科会ではこうした助成金制度を提案している。
●ワーク・ライフ・バランスについて、第１分科会で相当議論されてきたことが伺える。提言書の中で、「新宿単独で解決できる問題かという疑問が残されている」とあるが、新宿区として、大企業・区・区民が議論する場を設けて、全国のモデルとなるような方向性を打ち出すべきではないかと思う。
・新宿区の職員数及び区内の居住している職員の割合について教えて頂きたい。
△職員数は約 3,000 人である。そのうち、新宿区内に居住している職員は１割弱である。
○企業がワーク・ライフ・バランスの考え方を理解して取組むことが重要だと思う。しかし、法律があっても十分にその趣旨が理解されていない中で区が独自にできることは難しいだろう。
・新宿区独自の目標を設定し、それをどのように徹底するかについて、例えば区の条例を利用することが可能かといった強制力に関する研究も必要だと考えている。
・保育園については待機児童が非常に多い中で、施設の充実が求められている。また、子育てと違って介護の場合は先が見えないことが多い。介護休暇が切れると施設を探すしかないが、そうした介護施設は非常に少ない。施設整備は区で対応できることであるので、こうした内容は盛り込むべきである。
●非正規雇用が増加しつつあり、その問題の深刻さへの理解が一般の人たちにも浸透したと思う。こうした点も踏まえつつ、企業の果たすべき社会的責任の一環として、各企業が正社員としての雇用を促進するよう意識啓発するべきである。
・また、雇用環境の確保については行政の監視が必要であり、区として取り組むべき点だと思う。
●自らの子育て体験の中で問題になったのは、高等教育であった。当時、高校を転校するとなるとすると、まず現在通っている高校を退校し、転居先の高校の入試に受かることが必要であった。万が一転入先の試験に落ちると、転出元の学校にも戻れない制度であり、こうしたリスクを考え

ると、単身赴任せざるを得なかった。会社側の転勤に対する配慮も必要だが、制度的な配慮も必要である。

「３.ぶらりと道草したくなる楽しいまち」「４.誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」

○「ぶらりと道草したくなる楽しいまち」の「楽しい」の主体は誰かを考えると「来街者」ではないかと思う。そうすると、対象地域はターミナル駅周辺と歌舞伎町界隈になると思うが、本来は「全区民」が楽しくなるまち、ということを考えるべきではないか。

●今の委員の意見に同感である。新宿では「歩きたくなる新宿」というキャッチフレーズを打ちだしたことがある。しかし、居住者にとっては「歩きたくなる」よりも「安心して住むことができる」という方が重要である。「安心」という基礎があってこそ、来街者が「歩きたくなるまち」を実現する事ができるのではないか。

●分科会の議論の中では、必ずしも特定の来街者を意識した議論ではなかった。

・「ぶらり」や「道草」という言葉は、区民が自分たちのまちを良く、深く知ろうという考えから利用した。自分たちの身近なものを見つめ直して、発見するということを意識している。

・この項目では文化的な内容にまとまっているが、地域の緑や安心といった問題も重要であることは認識しており、他の項目で議論されていることをご理解頂きたい。

＜商店街＞

●商店会についてデータがあれば補足して頂きたい。

△新宿の商店会連合会の加盟商店会は 95 商店会である。数としては減少傾向にある。

●商店会は地域のコミュニティの中心となりうるが、地域によっては厳しい環境に置かれていると思う。コミュニティと商店会の関係がわかれば知りたかった。

・コミュニティがなければ相手にされない商店会もあると思うが、そうすると地域の中で核になる存在がなくなることになる。

●目白の商店会の会長の話を伺うと、大きなマンションが立地すると、商店の連続性が切れてしまい、商店街区としての町並みの維持が困難になるようである。

・古いタイプの商店が多く、新しい発想が出てこないことも問題となっている。しかし、一部のエリアには若い人が集まっており、音楽祭を開催している。こうした若い動きと商店会が合体すればよいと考えている。

●約 10 年間の間に解散となった商店会の資料があれば、多少参考になるのではないか。

●商店会は独立した組織であり、それなりの考え方をもって活動しているため、上から考えを押しつけるというのは実情に即さないのではないかと思う。

・また、商店街に若者をいれるというのもやや無責任な干渉ではないか。地域の中で活動が自由にできる組織は商店会しかないので、まず商店会の自主的な発想を吸い上げていかなければいけないのではないか。

・最盛期は 104 の商店会が存在したが、現在は 95 まで減少している。柳町など再開発で商店会が解散しそうな例もあれば、シャッター街になってしまい事実上役割を果たしていない商店会もある。

●商店街は東京都から補助金をいただいている。しかし、本来地域のＮＰＯ団体などが商店街活性化に関わるべきであるのに、これらの団体は補助金の受入団体にはなれない。

・商店街のことは商店街が中心になるのは当然だが、若者と共に、地域に関心を持つ団体が正当に評価され、彼らの力を活用することが重要であることからも、当該制度は改善が必要である。

●四谷地区でまちづくりを推進している。四谷駅の活性化を検討する中で、来街者が再び来たいと思えるまちづくりが重要だと感じた。
・今回の分科会の議論は、地域の愛する人をどのように増やし、そういった人たちのコミュニティをどのように育てるか、ということを議論した内容であることをご理解頂きたい。
●地域の商店会をどのように活性化し、維持していくかについて、商店会も利用する地域の住民も行政も一体となって議論していくことが重要であり、そのためのシステムの検討が必要である。
・小さな商店会はスーパーやコンビニが進出することで衰退することが多い。しかも、若者がたむろし、客が入れない状況になっている。本来は若者もその他の住民も楽しく生活できる空間を作り上げることが重要である。
○商店街の活性化について、後継者問題が大きな課題となっており、対応策の検討が必要である。
・地域の活性化の手段として新しい祭りやイベントを開催することがあるが、祭りやイベントが、活性化につながるのかよくわからない。例えば、祭りやイベントを手伝うために商店街の各店舗は店を閉めなければならず、結果的に、活性化につながらないことが多い。
・講師の派遣などを通じて、イベントをどのように「売り上げ増加」につなげるかといったノウハウを、行政が地域に伝えることも重要だろう。

＜歌舞伎町＞
●「歌舞伎町の再生・活性化」という項目があるが、これは、「安心して若者が集えるまちづくり」とも通じる内容である。
・歌舞伎町ルネッサンス推進協議会が発足し、歌舞伎町の再生に取り組んでいる。歌舞伎町の再生には 30 年程度はかかるといわれているが、非常に悠長な話である。現状でも、暴力団が若者への接近し、簡単に売春行為ができる場所ということで、家出少女や麻薬に染まる人も多い。こうした状況から、より積極的に取り組み、一刻も早く再生させなければならない。
・また、歌舞伎町ルネッサンスが適切に活動できてるかが非常に疑問に感じる。
○歌舞伎町ルネッサンスについては、真剣に取り組んでいると感じている。
・歌舞伎町は能楽や音楽、演劇、映像が楽しめる大衆文化の発信の場だった。もう一度それを再生したいと考えている。歌舞伎町で営業している人、ビルのオーナー、歌舞伎町に愛情をもっている人の力を合わせないと、変えていくことは難しい。
・また、若者の労働環境の改善にも気をつけないと、若者の「ライフ」と「ワーク」の両立は難しい。
●世界的にも環境浄化の例としてよく取り上げられるのは、ニューヨークである。ニューヨークは市長の努力の結果、地域の環境が浄化した。
・環境浄化のためには受け入れるものと排除すべきものを明確にすることが必要であり、そうすることでよい歌舞伎町を育てていくことができるのではないか。

「5.日本を代表する魅力ある超高層ビル群の再生」
●超高層問題は非常にデリケートな問題であった。西口地区は、新宿区の顔として機能しており、当地区はその魅力を活用しながらよりよいものにしていけば良いという議論であった。
・一方で、それ以外の地域の超高層ビル、特に超高層住宅ついては否定的であった。超高層住宅は同世代が大量入居するため、今後一斉高齢化していくといった問題のほか、近隣環境の悪化や地域商店街の分断につながるといった問題を引き起こすという議論がなされた。

●新宿の超高層ビル街は魅力的な空間でもある。
・私が携わっている柏木のまちづくりでは、新宿の超高層の夜景を生かせないかとか考えている。ニューヨークのエンパイアステートメントビルは７色の光でライトアップされ、夜景が非常にきれいであるが、都庁や区のビルが美しくなるような工夫ができないか。都とも連携をしながら、超高層ビルの夜景を活用することも考えてはどうか。
●都庁及び駅周辺を除き、平成 18 年の３月から各地域毎に高さ制限を設けている。
・建築基準法には建物と隣地境界線との距離に対する規制はなく、民法で 50cm と位置づけられているのみである。しかし、特に高層ビルの場合、火災予防等の観点からも、互いの建物の間は１m程度は必要であり、何らかの法的規制の検討も必要である。
●景観以外にも、地域の生活環境に様々な影響を与えるため、西新宿の超高層ビル群以外に、新宿区に超高層ビルは不要だと考えている。
●ミニ高層ビルが地域に悪影響を及ぼしていることもあるので、超高層だけではなく、こうしたことへの対策も必要である。

「６.車中心から人間中心へ」「７.ひとにやさしいのりものネットワーク」

●交通事故については、車と車の事故と、人と車との事故の違いや、被害者が高齢者か幼児かということがわかれば教えて頂きたい。
△別途資料を提示する。
○タイトルの「ひとにやさしい」の「ひと」を全ての人ととらえると結局誰に対しても優しくない交通機関となる。「交通弱者」を中心に考えるべきだと思う。
・資料１の「交通不便地域」の説明は非常に気になる。地下鉄 13 号線開業後、一部地域を除いて「交通不便地域」が解消されるとあるが、これは健常者にとってであり、交通弱者にとっては必ずしもそうではない。
・特に高齢者にとっては下り階段がつらく、最も利用しやすい交通機関はバスや路面電車である。こうした交通機関のネットワークを新宿区内に張り巡らすべきである。地方都市には路面電車が走っている場所が多い。新宿に路面電車が復活し、車利用が不便になれば、交通課題は解決するだろう。
●道路は人のためにつくらなければいけないということが、この提言の狙いである。
○約 20 年前に、世田谷区が「道路と広場はまちの庭」とうスローガンを掲げ、歩車共存の区道をつくり、自動車を閉め出すことで「庭」を作っていた。
・新宿の場合は花園小学校校庭と公園の一体利用をはかっている「スクールパーク」や、箪笥町の区民センターと公園を一体的に整備している箇所が存在する。行政の姿勢として、施設の管理主体が異なることはわかるが、道路をまちの「庭」として一体的に捉えることが重要である。
・区道の街路樹の低木はつつじになっている。しかし空気が悪いので色が黒くなる。商店会活性化のためにも、商店会やシニアクラブに管理をお願いし、別の花に切り替えていく活動を展開してはどうか。
・西新宿の超高層ビル街は地下に道路があるので、車は地下を走らせ、地上の道路は庭にしても良いのではないかと考えている。
●欧州に行くと連続した建物の中に広場が配置されており、集いの場となっている。こういったものを公共施設を利用して作ることが重要ではないかと思う。
・新宿は坂が多いまちである。そこを小型のバスが回遊するネットワークを構築することも大事だと思う。

●道路空間と乗り物の問題に関する論点として、区民会議の中では交通バリアフリー対策の他に、地域に公共空間をどのように取り戻すかとという点も議論された。公共空間としては道と公園しかない中で、その大部分を占めている道路を地域と人の視点から見直した。

・地域の視点からみた場合には、現状の道路計画を再検討する必要がある。例えば、都市計画道路として認定されたもののまだ完成していない道路で、地域にとってプラスにならない道路は再検討する時期にあるのではないか。

●最終提言書では幅員 6m 以上の道路にはすべて 24 時間ゴミ置き場を道路に設置することになった。個人的にはソフト的な対応で十分解決でき、設置する必要性はないと考えている。

・路面電車の復活の問題については、復活は難しいという意見が分科会の中でも強かったが、リーダーが非常に重視し、最終提言書の中に残されている。

・路面電車は道路幅員が広いところで、バスの輸送力ではカバーできない乗客を運ぶことに意義があるため、現実的に復活させることは困難だと思う。

◎「車中心から人間中心」という表現は、新宿区の現状では適切な内容だが、全国で言えることではない。例えば新潟では車は非常に有用であり、なくてはならない存在である。一概に車が人間中心ではないとは限らないことをご理解頂きたい。

・ピッツバークは製鉄の街で、鉄の生産量が落ちると、人口が半分程度に落ち込んだ。このとき、企業がまちづくりの資金を出し、協議会を設置し、プランナーなどの専門家を 20 名程度雇用し、自分たちのまちをどのようにしたら元気にできるか、ということを議論した。

・新宿区でも、企業がまちづくりの協議会を設置し、企業自らが資金を出し、自分たちで議論・検討していくという仕組みづくりが大事だと思う。

・ニューヨークでも、地域の商店街に相当する組織がこうしたまちづくり活動を展開している。また、まちの清掃や交通の問題対策などを総合的に取り組んでいる。自治体からの補助金も受けているが、その他の資金は自分たちで拠出している。

◎商店街だけで、地域を活性化をすることは難しい。商店街を中心に、地域の教育、コミュニティ、福祉など総合的に取り組む組織をつくっていくことが重要である。

●コミュニティバスについては、四谷でモデル事業を行うことになっているので、また報告の機会があれば報告する。

●弱者に優しい一般の人のモラルづくりも重要であり、こうした視点も追加すべきである。

●現状と課題として、都バス・都電の乗車人員が減少しているとあるが、その原因を十分に把握した上で、路面電車の復活も含めて、公共交通を大事に発展していくことが重要である。

・路面電車を復活させる時に、今の荒川線のようなものでよいのかといった検討も必要である。例えば、大江戸線は従来の電車のサイズと比べて２割以上小さくなっており、建設費も従来の地下鉄と比べても安くなっている。最終提案をもとに、「新宿型の新交通システム」を作り上げることまでやった方がよい。

・中国の場合、北京市内の混雑を緩和するため、ナンバーによる車の流入規制を行っている。これをそのまま導入することは難しいが、こうした事例もふまえつつ検討すべきではないか。

◎広告物が人の歩行を妨げていることが多い。これに対する対応も必要である。

・また、自動販売機を屋外に置く場合、災害時の転倒対策など、安全性の確保の問題に留意する必要がある。

「８.知のネットワーク」

●新宿区立産業会館（ＢＩＺ）は商店街連合会で月２回借りているが、周辺に立地する大企業が利用する貸し会議室となっている。本来の姿ではないので、立地場所を変えるべきだ。

○図書館は人材が非常に重要である。司書の資格を持った職員の比率があまりにも少ないことが、計画を具体化する上で大きな課題になると思う。

・中央図書館がネットワークの中心になるべきだと思うが、中央図書館については 10 年近く前から、建築基準法上今よりも床面積を大きくできないことが問題となっている。中央図書館の建て替えの問題と図書館が近くに立地していない空白地域の問題は、次回の基本計画の中で対策を位置づけるべきである。

●図書館については、分科会の中で、子どもの教育に関する資料が多いのに活用されていないという問題も指摘された。子育てしている人が集まる場所や情報を発信する場所として、学校図書館が活用できるのではないかという議論もあった。

●昨日の文部科学省の発表で全公立学校で放課後に児童を預かることとなった。これにより公立小学校の位置づけが大きく変わる。学校図書館の活用については、こうした動きと連動しながら、取り組みを進める方が効率的だろう。

●そもそもは図書館の問題を議論した。しかし、新宿区民の情報リテラシーが低いことから、情報流通を主軸とした活用を通じて情報リテラシーを高め、最終的には区民が情報を発信することを目指すべきであると考えた。

●図書館が情報発信基地になるのは素晴らしいことだと思う。区が地域の住民とどのように情報を共有していくかが非常に重要である。

●箪笥地区の地区協議会では、今後、行政情報・生活情報を地区センターで管理・収集することを目指している。地区協議会を中心とした自治活動を進めるためには、地区協議会の中で情報センターの機能を持つことが必要だと思う。

●団塊世代が定年を迎える。こうした団塊世代は定年後、音楽、スポーツといった文化活動に従事することになる。そのためにも、メディア大学などが重要だと思う。こうした文化活動の活性化が、地域コミュニティの再生に役立つと思う。

その他全般

●提言書作成時には、現在の基本構想をどのように手直しするかといった問題意識が強かった。そのため、提言書はやや各論に重きが置かれており、提言書の項目だけでは不十分な内容もある。

●全般に関する内容であるが、提言書にわかりにくい表現がある。今後提言書が公共の場に置かれた場合を考えて、わかりやすい文章で表現して頂きたい。

・また、例えば「泥棒市」という表現など、適切でない表現の見直しも必要である。

○提言を書かれた方の気持ちは伝わるが、変わった言葉を使っており、一般の区民にはなじみのない言葉が散見される。格好よさを求めるよりは、わかりやすさを重視して欲しい

●今日の議論に観光というテーマを忘れないで入れて頂きたい。商工会議所が中心となって、名所旧跡だけではなく、今後地域のコミュニティを観光するということにも取り組みたい。

●最終提言書は１年程度の間で区民が作成したので、文章としてこなれていない部分があると思う。

・今回の区民会議は「協働」「参画」という大きな方針の下に開催された。しかし、議論をするために必要な情報が入手困難な場合も多かった。協働を成り立たせるためには情報公開の原則を謳うことが重要である。

（以上）